



2019年10月1日着任

## 村田了介

むらた・りょうすけ

協奏分子システム研究センター  
機能分子システム創成研究部門 技術支援員

2019年10月1日より技術支援員として再着任させていただいています。未知の分野で分からないことも多いですが、新鮮でとても楽しく仕事をさせていただいております。半年ほどブランクがありますが、今後も新しい気持ちで研究者の方々のお役に立てるよう頑張りたいと思っています。至らぬ点も多いと思いますが宜しくお願いします。

2019年11月1日着任

## 下出敦夫

したで・あつお

理論・計算分子科学研究領域  
理論分子科学第一研究部門 助教

2012年に東京大学 大学院工学系研究科 物理工学専攻で学位を取得した後、京都大学や理化学研究所での研究員を経て、2019年11月に南谷グループの助教として着任いたしました。これまでの研究は物性物理の中でもかなり基礎に寄っており、分子研の皆様とは分野が異なりますが、むしろそれを生かし、お互いにとって刺激になれば光栄です。よろしくお願ひいたします。

2019年11月1日着任

## 太田 紘 志

おおた・ひろし

技術課  
光技術班 係員

2018年に博士後期課程を修了後、1年半勤めていた企業を退社し、UVSORの加速器部門の技術職員としてお世話になっています。私自身の出身地ながら、UVSORにて実験を行ったことはありませんが、学生時代は放射光ユーザーとして研究を行っていました。加速器についての知識はまだ不足していますが、ユーザー視点を持ちながら、施設の安定した運営と開発に尽力していきますので、よろしくお願ひいたします。

## 覽古考新22 | 1996年

分子研は分子科学の基礎研究の重要拠点として国際的に認められるようになって既に久しい。この間、研究者のたゆまざる努力とサポータースタッフの献身的な尽力によって分子科学研究の発展に多大な貢献をしたと同時に、最も活力に溢れ流動性に満ちた研究所に成長したと自負している。いまや世界をリードする研究が分子研の多くの研究グループによって展開されており、その成果は質、量ともに高い評価を得ている。しかし、これから重要なことは研究水準の底上げでなく、突出したピークを作り出してゆくことである。ものまねではない原理的に全く新しいものを創出することが強く求められており、これが分子研の最大の課題である。そのためには研究者個人の自由な発想を育み、型破りの考えを容認する寛大さが必要であり、冒険もあえて行うことが求められると思う。そのような野生味あふれた分子研への脱皮にむけ真剣な努力を行っているところである。

分子研レポート'95「序章」(1996年)  
伊藤 光男 (分子科学研究所長)